学校緊急事案
想定訓練　振り返りシート

実施日:　　年　　月　　日

学校・グループ名

評価用紙

それぞれの役割を振り返り、次回のよりよい対応につなげましょう。

1 第一発見者

振り返りの視点
- ☐ 周囲の安全を確認し、傷病者から離れずに応援を求められた
- ☐ 心肺蘇生を行った

メモ

胸骨圧迫を始めるまでの時間　分　秒

2 AEDの手配

振り返りの視点

●片道 AEDの場合
- ☐ 携帯電話を用いて最短時間でAEDを取り寄せられた

●取りに行く場合
- ☐ AEDの場所を把握し、最短ルートで取りに行けた

メモ

AED到着までの時間　分　秒

3 119番通報と口頭指導の伝達

振り返りの視点
- ☐ 場所・年齢・状況など必要な情報を簡潔に伝えられた
- ☐ 口頭指導の内容を速やかに現場と共有できた

メモ

4 近くの先生、職員室、保健室、連絡

振り返りの視点
- ☐ 「場所・状況・必要な応援」を簡潔に伝えられた
- ☐ 必要な人員を速やかに現場へ集められた

メモ

5 指揮命令者

振り返りの視点
- ☐ 指揮命令内容チェックシート（本資料3ページ）に基づき、全体の状況を把握し、「誰に何を」を明確に指示できた

メモ

6 心肺蘇生の継続・交代、AED使用

振り返りの視点
- ☐ 胸骨圧迫を適切に継続し、中断を最小限にできた
- ☐ AEDを速やかに装着し、安全確認をして使用できた

メモ

初回電気ショックまでの時間　分　秒

7 必要な応急手当（止血・エピペン等）

振り返りの視点
- ☐ 傷病者の状態から必要な処置を判断できた
- ☐ 応援を求めながら、必要な薬剤・物品を適切に使用できた

メモ

8 記録

振り返りの視点
- ☐ 発見・119番通報AED・処置・症状の推移などを時系列で記録できた

メモ

9 救急車進入路確保・誘導

振り返りの視点
- ☐ 救急車の進入経路と駐車場所を確保できた
- ☐ 救急隊を傷病者の場所までスムーズに誘導できた

メモ

10 他の子どもの安全確保

振り返りの視点
- ☐ 子どもを安全な場所へ誘導できた
- ☐ 不安を軽減する声かけができた

メモ

11 保護者への連絡（第1報）

振り返りの視点
- ☐ 憶測ではなく「分かっている事実」を正確に伝えられた
- ☐ 必要なタイミングで速やかに連絡できた

メモ

12 傷病者の遮蔽

振り返りの視点
- ☐ 傷病者のプライバシーに配慮できた
- ☐ 周囲の視線や人の動線を適切にコントロールできた

メモ

13 傷病者の情報収集

振り返りの視点
- ☐ 既往歴・アレルギーなど必要な情報を確認できた

メモ

14 救急車同乗

振り返りの視点
- ☐ 同乗に必要な物品や書類を持つことができた

メモ

15 （病院での）保護者への説明/管理職

振り返りの視点
- ☐ 必要な情報を整理し、落ち着いて保護者へ伝えられた

メモ

16 全校の子ども指導

振り返りの視点
- ☐ 不安や混乱を最小限にする配慮ができた

メモ

うまくできたこと（よかった点）	改善したいこと（課題・困ったこと）	次回に向けて（具体的にどう改善するか）

ご意見・ご感想はこちら

できなかったことを探すのではなく、チームで気づきを共有し、次の訓練・実際の対応につなげましょう。

※役割 14 ～ 16 は、救急車到着までの10分間の訓練のため、実際には行動しませんが、内容の確認をしておくことが大切です。
※「観察者」を置いた場合は、よかったこと、改善すべき点などを俯瞰して観察してもらいます。
※訓練の振り返りの中で、医学的・専門的な疑問が出た場合は、その場で無理に結論を出そうとせず、後日、学校医や主治医などの専門家に確認し、教職員間で共有しておきましょう。
※振り返って確認したこと、改善すべき点は、欠席者にも共有し次年度の訓練計画に反映させましょう。
※救命処置の後に不安を感じる場合があります。その際は、バイスタンダー相談窓口や地域の心の相談窓口などへご相談ください。

◆編集委員
伊藤 裕　大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター MD
桐田 寿子　日本AED財団 メッセンジャー
桐淵 博　日本AED財団 理事
小城 理恵　さいたま市立岩槻中学校 養護教諭
千田 いずみ　明治国際医療大学保健医療学部救急救命学科 講師
辻野 智香　元 さいたま市立高砂小学校 養護教諭
水村 史香　さいたま市立いろどり学園小学部・中学部 養護教諭
山下 誠二　星槎学園中等部大宮校
◆協力
さいたま市教育委員会

公益財団法人 日本AED財団
編集　〒101-0047　東京都千代田区内神田2丁目7-13山手ビル3号館1階

／ 日本臨床救急医学会

想定訓練していますか？

\子どもが倒れた！/

そのとき、誰が何をする？

学校緊急事案 想定訓練マニュアル



学校における死亡事故は突然死（発症から 24 時間以内の予期せぬ内因性（病）死）が最も多く、それ以外にも窒息や溺水、熱中症、アナフィラキシーショックなどさまざまな緊急事案があります。
いずれの場合も、子どもの反応がなく普段どおりの呼吸がない・わからない場合は、迅速に一次救命処置を開始し、救急隊が到着するか本人の意識が戻るまで、それをしっかり継続する必要があります。
一方、適切な救命処置を行うためには、119番通報やAEDの手配、救急隊の誘導、他の子どもの安全確保など、教職員が連携して組織的に対応することが必要です。
文部科学省「学校事故対応に関する指針【改訂版】」（令和6年3月）でも、緊急事案を想定した訓練を実施し、誰もが取り組める体制を整えておくことの重要性が示されています。
その場にいる人が「すぐに、だれもが、みんなで」行動できるように、日頃から想定訓練を行い、教職員全員の「当事者意識」を強化することが大切です。訓練を通して学校ごとの課題に気づき、改善し、また訓練する。その積み重ねで、学校全体の緊急時対応力を高めていきましょう。

実施の流れ（45分）

			参考
❶	1分	目的の確認	
❷	5分	役割分担の確認	2・3ページ（本資料）
❸	4分	役割ごとの動きの確認	救命対応の実例、事故対応の流れ
❹	15分	訓練 傷病者発見から救急隊到着までの平均時間10分間で行う	場面想定の例
❺	20分	振り返り それぞれの役割や行動について、疑問や不安を共有し解決に向けた手立てを考える	4 ページ（本資料）

救命対応の実例を見る「15分間の奇跡 先生たちの救命リレー」

事故対応の流れを見る「ASUKAモデル」
※傷病者発生対応（基本例）40分32秒～（約3分30秒）を視聴

場面想定の例



ASUKAモデルを活用した「傷病者発生時対応訓練」の様子

準備するもの（例）



① AEDトレーナー、マネキン 等
② 携行機材
- ・記録用紙
- ・遮蔽用テントやバスタオル
- ・他手当用品
- ・食物アレルギー対応マニュアル

③ 役割分担カード※1、ゼッケン
④ 指揮命令内容チェックシート

※エピペン等は必要に応じて準備してください。

※1 役割分担カード

実施に当たって

- 全体を評価するための「観察者」を置いて実施する場合もあります。写真のように模範を示してから全員で実施する方法もあります。
- 役割分担カード※1や、役割を記入したゼッケンなどがあると動きがわかりやすくなります。
- 訓練を重ねると、事前の役割分担なしに指揮命令者がその場で役割を指示するなど、より実践的に実施できるようになります。また、教職員を学年別など複数のグループに分けて同時進行で実施することもできます。
- 学校生活管理指導表がある子どもを想定して訓練することも大切です。
- 人事異動により構成員が毎年変わるので、年度当初に計画するなどして学校の危機対応能力の維持・向上に努めましょう。
- 訓練人数は、実際の緊急時に対応する教職員数を想定して設定してください。人数が少ない場合は、1人が複数の役割を担当するなど、学校の実情に応じて役割を組み合わせて実施できます。
- 訓練の実施場所は、校庭や体育館だけでなく、教室やプール等さまざまな場面を想定して設定しましょう。場所に応じた対応や役割分担、AEDの搬送経路などを確認することができます。

想定訓練行動チャート

救命活動は すぐに だれもが みんなで!

まずは、やってみる。そこから見えてくることがあります。

訓練の目的は、完璧にできることではありません。
実際に動いてみて、「できたこと」と「うまくいかなかったこと」に気づくことが大切です。
訓練 → 気づく → 改善する → また訓練する
を繰り返しながら、学校・園の対応力を少しずつ高めていきましょう!

1 第一発見者役 ※ただちに心肺蘇生を開始する

観察・判断・応援要請

☐ 応援要請　☐ 呼吸の確認　☐ 心肺蘇生

救急隊到着まで傷病者の状況を把握し、必要な情報を伝達する。
119番通報時は、必要に応じてスピーカーモードを活用する。
※一人しかいない場合は、携帯電話で職員室等に連絡してAEDを手配し、
すぐに119番通報を行い、口頭指導を受けながら心肺蘇生を行う。

あなたの**学校**では
3分以内の
電気ショックが
できますか?

AED

教育活動中、
緊急通報用の
携帯電話を所持
しましょう





2 AEDの手配役

- AEDの場所を把握し、最短ルートで取りにいく。
- 届けてもらう体制が望ましい。これによって
  AED到着時間を大幅に短縮できる。

片道AED! 片道AEDとは、AEDの近くにいる人に現場まで届けてもらう方法。

3 119番通報と口頭指導の伝達役

- 119番通報を行い、必要な情報を伝える。
- 通報はスピーカーモードにして、
  リアルタイムで指示が
  受けられるようにする

4 近くの先生、職員室、保健室、連絡役

- どこに行って、何を伝えるかを明確に指示する。
- 子どもの場合は2人一組にして指示を
  出すのが適切。
- (低学年の子どもなどは)SOSカードの活用も考慮する。

SOSカード

5 指揮命令者役 1番初めに駆けつけた人/管理職

指示や報告はリードバック、ヒアバック(復唱確認)で行う。

各役割が同列で連携して進行

6 心肺蘇生の継続・交代、AED使用役

- 胸骨圧迫を継続し、交代して行う。
- AED到着後、すぐに装着・使用する。

最優先!

7 必要な応急手当役(止血・エピペン等)

- 止血やエピペン等の応急手当を行う。
- 必要な物品を適切に使用する。

最優先!

8 記録役

- 口頭指導に対応するための記録及び事故対応の記録を行い、必要に応じて教職員や医療機関に情報提供を行う。
- 記録用紙を準備しておくこと。

9 救急車進入路確保・誘導役

- 障害物を撤去し駐車スペースを確保する。
- ストレッチャーの進入路の確保と誘導。

10 他の子どもの安全確保役

- 周囲にいる子どもを集め、教室等に移動させる。

11 保護者への連絡役(第1報)

- すべての状況が把握できてからでは遅い、簡潔に伝えます。誠意をもって「分かっている事実」を正確に伝える。
- 搬送先が決まり次第、再度連絡することを伝える。また、保険証や診察券、必要書類など、受診に必要なものを準備するよう伝える。

12 傷病者の遮蔽役

- 傷病者のプライバシーへの配慮(テントでなくてもバスタオルや毛布をAEDの近くに用意しておく。)

13 傷病者の情報収集役

- 保護者連絡票(健康情報)や緊急連絡先を確認する。
- 既往歴やアレルギーなどの情報を収集する。

14 救急車同乗役

- 倒れた時からの状況説明が必要なので第一発見者の同乗が望ましい。

15 (病院での)保護者への説明役/管理職

- 状況や対応の経過を整理し、丁寧に情報提供する。

16 全校の子ども指導役

- 安全が確保された後、全校放送や指導で子どもの心のケアと安全指導を行う。

5人で対応する場合の一例

人数が少なくても、役割を兼務しながら対応できます。
この図は一例です。学校・園の実情に合わせて、役割を調整しましょう。

経過時間(目安)	0~1分 発見・初動	1~3分 発見・初動	3~5分 応援・準備	5~10分 心肺蘇生・応急手当	10~15分 救急隊到着・引継ぎ	15分~ 事後対応
A 発見者	1 第一発見者	6 心肺蘇生の継続・交代、AED使用		12 傷病者の遮蔽	14 救急車同乗	
B 通報・応急手当		3 119番通報と口頭指導の伝達	6 心肺蘇生の継続・交代、AED使用	7 必要な応急手当		
C AED手配・救急車誘導		2 AEDの手配	9 救急車侵入路確保・誘導		11 保護者への連絡	
D 応援要請・安全確保		4 近くの先生、職員室、保健室、連絡	10 他の子どもの安全確保		16 全校の子ども指導	
E 指揮命令・記録		5 指揮命令者	8 記録	13 傷病者の情報収集	15 (病院での)保護者への説明/管理職	

指揮命令内容チェックシート

- ☐ 傷病者の状況を的確に把握しているか。
- ☐ 心肺蘇生を含む救命処置を継続して行っているか。
- ☐ 応援の要請をしたか。
- ☐ 救急車の要請をしたか。
- ☐ 通信指令員による口頭指導を伝達したか。
- ☐ AEDなどの重大事故発生時携行機材を手配したか。
- ☐ AEDの電源をいれ、パッドを装着したか。
- ☐ 保護者に事故概要などを伝えたか。
- ☐ 周囲にいる子どもを現場から離れた場所に移動させたか。
- ☐ 救急車の進入路を確保しているか。誘導の準備はできているか。
- ☐ 事故対応について時系列に記録をしているか。

【救急車の要請方法】

ただちにその場から119番通報
→「救急車をお願いします」
・「〜学校です。住所は○○○です。」
・傷病者の状況(学年・性別・意識の有無・呼吸の有無・けいれんの有無・全身の蕁麻疹の有無)
・通報者の氏名を伝える

※緊急通報用の携帯電話を所持する

- - コピーして切り取り、常に名札に入れておきましょう - -